

「第70回気仙沼みなとまつり」を開催しました

■ 70回の節目となる今年のみなとまつりは、復興工事が進んだことを踏まえ12年振りに2日間の全ての行事を内湾・港町周辺で開催することで準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス新規感染の急拡大を受け「大はまらいんや踊り」と「打ちばやし大競演」が中止、8月7日(日)1日間での集約開催となりました。

■ 昼の部は2つの会場で多彩な行事が行われ、内湾一体が活気づきました。

(1) 港町臨港道路会場

11:20~11:50 「オープニングセレモニー」

12:00~14:30 「パレード」

⇒10団体・500人が500mのコースを練り歩き、趣向を凝らした衣装と演技で沿道から声援を浴びた。

15:00~16:30 「ステージイベント」

⇒5組による唄込み、歌唱、ダンス等のパフォーマンスが披露され、観衆を沸かせた。

(2) 南町海岸・湾内会場

12:00~15:00 みなとオアシス(*)登録記念「カッター競漕大会」

⇒12年振りの復活開催。10チームが往復450mコースで鎬を削る熱戦を繰り広げた。優勝チームには、みなとオアシス全国協議会の助成を受け製作された優勝旗が国交省東北地方整備局:安部賢副局長より授与された。<優勝:「大島」火消しの樁/準優勝:マカシークラブ>

*地域の活性化に資する「みなとまちづくり」を促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設やエリアを国交省港湾局長が登録するもの。平成15年度に制度が創設され、みなとオアシス気仙沼は令和3年7月22日登録。⇒県内3箇所目、東北19箇所目、全国150箇所目(令和4年7月末現在は155箇所)。コロナ禍で延期となっていた登録証授与式がカッター競漕に先立ち執り行われ、東北地方整備局:安部副局長より市長に「登録証」が授与された。

登録施設は「まち・ひと・しごと交流プラザ」(創・PIRE7)、「内湾エリア」「海上遊歩道」「魚市場」「朝日ふ頭」等。

本市としては、登録を契機に三陸沿岸道路の「陸路」に加え、「海路」での誘客も図って行きたい考え

■ 夕の部

18:00~20:30 「海上うんづら」 【主催】(一社)気仙沼青年会議所

「さんま船集魚灯披露」 【主催】第81豊清丸

19:40~20:00 「みなと気仙沼大使:北野都歌謡ショー」

20:00~20:30 「海上打ち上げ花火」

⇒みなとまち気仙沼ならではの見事なコラボレーションが観衆を魅了し、クライマックスでは4,000発(例年の1.7倍相当)の「海上打ち上げ花火」が気仙沼湾の夜空を彩りました。

■ 来場者数 31,000人 ※内訳:昼の部 (1)会場5,000人,(2)会場1,000人 夕の部:25,000人

《補足》

- ・御来賓としてインドネシア共和国:ヘリ・アフマディ駐日特命全権大使御夫妻、大使館関係者の御臨席を賜りました。
- ・オープニングセレモニーの席上、大島建設(株)代表取締役:菅原哲夫氏に対し、まつり委員会会長の菅原市長より感謝状が贈呈されました。⇒長年にわたり「海上うんづら」の催行に必要な台船を無償で貸与のうえ勇壮な行事の演出を支えて頂いております。
- ・特別協賛行事として、商工会議所青年部による「インドネシアフェスティバル」、気仙沼青年会議所による「気仙沼市民と創る 夢と希望で彩る天の川イルミネーション大作戦」も行われ、多様な来訪者より好評を博しました。
- ・開催にあたり、感染拡大防止のため観覧時の注意事項(*)を呼び掛け実施しました。
(*)各自検温・体調管理の励行、マスクの常時着用、大声での声援・会話を控えること、飲食スペースのみでの飲食許可、飲酒禁止等